

令和 5 年 6 月 14 日現在

機関番号：32645  
研究種目：基盤研究(C)（一般）  
研究期間：2020～2022  
課題番号：20K07417  
研究課題名（和文）唾液腺導管癌の新規個別化治療確立に向けた分子病理学的基盤：大規模多施設共同研究

研究課題名（英文）Molecular Pathological Basis in Salivary Duct Carcinoma from the Perspective on the Establishment of a New Personalized Treatments: A Large-Scale Multi-institutional Study.

研究代表者  
長尾 俊孝（Nagao, Toshitaka）  
東京医科大学・医学部・主任教授

研究者番号：90276709  
交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：アンドロゲン遮断療法が行われたEZH2高発現の唾液腺導管癌（SDC）は全生存期間・無増悪生存期間が有意に短く臨床的有用率・奏効率も低いことから、EZH2はアンドロゲン遮断療法の効果予測因子であることが示唆された。癌免疫微小環境の解析ではPD-L1（CPS）、PD1、CTLA4、CD8、FOXP3、LAG3高値群は、臨床病理学的な高悪性度と有意な関連が認められた。更に癌組織内の自律神経と予後との関係についても検討したところ、TH陽性の交感神経あるいはVACHT陽性の副交感神経の存在は予後不良因子であり、同一神経にTHとVACHTがいずれも発現している症例ではより予後不良の傾向を示した。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

我々はSDCに対してアンドロゲン遮断療法（抗AR療法）と抗HER2療法を施行し高い奏効率を得たが、治療効果予測因子は不明であった。また、癌の進展に関与し免疫チェックポイント阻害（ICI）療法の治療効果予測因子としても注目されている癌免疫微小環境や、予後との関連が示唆されている自律神経の役割についても、本腫瘍では不明であった。本検討でSDCの治療効果予測因子および癌免疫微小環境と自律神経の臨床病理学的意義の一部が明らかになった。これらは、抗AR療法や抗HER2療法、ICI療法、自律神経を標的とした治療法などを含むSDCに対する治療戦略を確立する上での基礎的データになり得る。

研究成果の概要（英文）：An EZH2-high status in patients with salivary duct carcinoma (SDC) treated with AR-targeted therapy was associated with a significantly shorter progression-free and overall survival as well as a lower objective response rate and clinical benefit rate. A high expression of EZH2 in SDC might be a predictor of a poor efficacy of AR-targeted therapy. Upon analyzing the immune microenvironment, an elevated expression of CD8, FOXP3, PD1, PD-L1, CTLA4, and LAG3 was associated with more aggressive histological features and poor prognosis. We also examined the relationship between the presence of autonomic nerves within the tumor and the prognosis. The presence of TH-positive sympathetic nerves or VACHT-positive parasympathetic nerves were negative prognostic indicators. Notably, cases where both TH and VACHT were expressed in the same nerve indicated an even greater tendency towards a negative prognosis.

研究分野：人体病理学（特に唾液腺腫瘍）

キーワード：唾液腺導管癌 androgen receptor HER2 治療効果予測因子 EZH2 PD-L1 免疫チェックポイント阻害薬 自律神経

1. 研究開始当初の背景

我々は、これまで種々の唾液腺腫瘍について、それらの臨床・分子病理学的性質を明らかにし、世界へ発信してきた。さらに、応募者は唾液腺腫瘍 WHO 分類の編纂に 2 度 (2003 年, 2016 年) にわたって参画し、2017 WHO Blue Book においては本研究課題の対象となる唾液腺導管癌 (salivary duct carcinoma: SDC) の筆頭著者を務めている。SDC は、極めて悪性度が高く、早期に転移をきたすため、治療困難とされており、その効果的な治療法の開発・確立が喫緊の課題となっている。このような背景から、応募者は、10 年前より「SDC 多施設共同研究」(全国 9 施設)を発足させ、基礎的・臨床的両側面から多角的に解析を遂行し、次々とその成果を国際英文誌に報告してきた。

(1) SDC の予後, 予後因子, および全身治療

SDC は、浸潤性乳管癌に類似した病理組織像を呈する著しく予後不良な希少癌である。正確な SDC の病理診断はときに困難で、それには唾液腺を専門とする病理医の判断が必要不可欠である。しかも、希少であるが故に 1 施設のみでは多数例の解析が困難である。

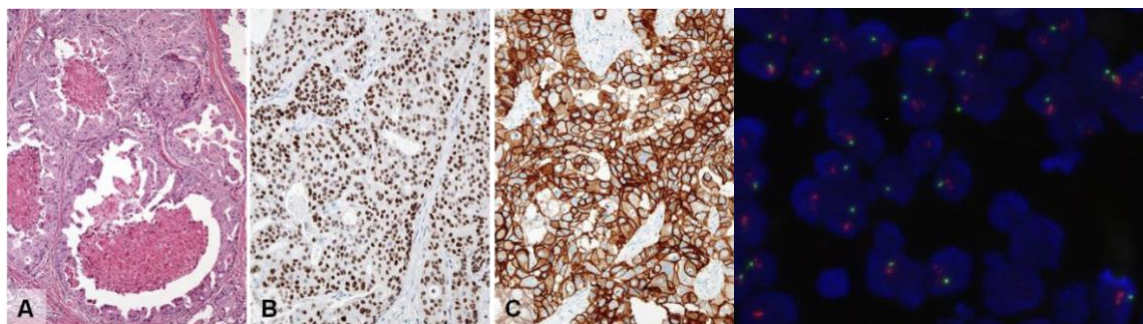


図 1. 唾液腺導管癌. A: 組織像, B:AR 陽性, C:HER2 陽性 図 2. HER2 遺伝子増幅(FISH 法)

上記「SDC 多施設共同研究」では、まず初めに SDC141 例を検討した結果、3 年粗生存率は 71% であり、原病死した症例の 75% に遠隔転移を認めた (*Ann Surg Oncol* 2016;23:2038-45)。従って、SDC の予後を改善するためには全身化学療法の確立が望まれるが、標準治療は未だ定まっていない。病理組織学的解析では、高度の核多形性、核分裂像、低分化胞巣、静脈侵襲が予後不良因子であり、これらを組み合わせた組織学的リスク分類は予後と強い相関を示した (*Am J Surg Pathol* 2020;44:526-35)。一方、SDC は高率にアンドロゲン受容体 (AR), p53, HER2, EGFR 陽性および HER2 遺伝子増幅を示すことを見出した (*Int J Clin Oncol* 2015;20:35-44) (図 1, 2)。また、分子標的治療選択を念頭に置き、AR, HER2, および Ki-67 の発現様式に基づいた新たなサブタイプ分類を提唱し (表 1)、それが予後と有意に関連することを報告した (*Oncotarget* 2017;8:59023-35)。現在、このサブタイプ分類に基づき、応募者は SDC 患者に対して AR や HER2 を標的とした新規個別化全身治療 (それぞれ、複合アンドロゲン遮断 [CAB] 療法 [前立腺癌の標準治療] と抗 HER2 療法 [乳癌の標準治療]) を実践している。

表 1. 唾液腺導管癌の AR, HER2, Ki-67 の発現様式によるサブタイプ分類と個別化治療

subtype	AR	HER2	Ki-67	症例数 (n=151)	Type of therapy
Apocrine A	+	-	low	36 (24%)	ホルモン治療 単独
Apocrine B	+	-	high	28 (18%)	ホルモン治療 ± 化学療法
Apocrine HER2	+	+		53 (35%)	化学療法 + 抗HER2薬 + ホルモン治療
HER2-enriched	-	+		17 (12%)	化学療法 + 抗HER2薬
Double negative	-	-		16 (11%)	化学療法

続いて「SDC 多施設共同研究」からは、炎症・栄養血液学的指標が予後因子となることも明らかにした (*Oncotarget* 2017;8:1083-91)。さらに、遺伝子解析を行ったところ、SDC では、TP53 が 68%, PIK3CA が 18%, H-RAS が 16%, BRAF が 4%, AKT1 が 1.5% の症例で変異をきたしており、TP53 遺伝子変異 (特にその短縮型変異) を有する例は予後不良であることが明らかとなった。それと同時に、PI3K/Akt/mTOR 経路の蛋白発現を検討した結果、PI3K と PTEN の発現と AR 発現とは関連しており、p-Akt 発現亢進は予後良好因子となることが分かった (*Oncotarget* 2017;9:1852-67)。加えて、AR 関連分子である FOXA1 に着目し、その蛋白発現と遺伝子変異解析を行い、FOXA1 が AR 発現と正の相関を示すこと、FOXA1 発現の低下が予後不良因子となること、FOXA1 遺伝子変異が 20% の症例に認められることも報告した (*Histopathology* 2018;73:943-52)。脂質関連蛋白の発現解析では、adipophilin 高発現が予後不良因子であることと、FASN と AR の発現が正の相関を示すことを明らかにした (*Virchows Arch* 2020;477:291-9)。本研究課題は、これらの成果をベースとしながらもさらに実臨床を反映させた治療へと発展させていくものである。

我々は、上述の CAB 療法と抗 HER2 療法の 2 つの臨床第 II 相試験を行い、国内外を含め過去最多数の症例数が登録された。奏効率はそれぞれ 42% と 70% であり、ともに非常に有効性の高い治療法であった (*Ann Oncol* 2018;29:979-84, *J Clin Oncol* 2019;37:125-34, *Ther Adv Med Oncol* 2022;14)。また、SDC における免疫チェックポイント阻害療法 (ICI 療法) の有用性と安

全性を明らかにした (*Sci Rep* 2020;10:16988)。なお、現在では、その成果が米国の頭頸部癌診療ガイドライン (NCCN guideline) に反映されている。

## (2) CAB 療法と抗 HER2 療法の治療効果予測因子

CAB 療法と抗 HER2 療法ではともに、その奏効率、無増悪生存期間中央値 (mPFS)、および全生存期間中央値 (mOS) と AR あるいは HER2 の免疫組織化学的発現の程度との間に有意な相関関係を認めなかった (ESMO Annual Meeting にて発表; 論文投稿準備中)。しかし、SDC では AR と HER2 が重複して陽性を示す症例が 35% と多く (表 1)、治療効果予測因子が存在しないため、科学的な根拠を基にした治療法の選択を行うことができないことが大きな課題となっている。

## (3) 免疫チェックポイント阻害療法に関連した癌免疫微小環境

癌免疫微小環境のうち、腫瘍間質浸潤リンパ球 (stromal Tumor-Infiltrating Lymphocytes; sTILs) や T リンパ球、マクロファージ、好中球などの免疫担当細胞の浸潤プロファイルは、種々の癌腫で予後因子や ICI の治療効果予測因子となり、注目を集めている。過去の報告から、SDC では tumor mutational burden (TMB) が高いことが想定され、免疫チェックポイント阻害剤療法が有望視されているが、その癌免疫微小環境の検討はほとんどなされていない。

## (4) 癌微小環境における自律神経の臨床病理学的意義

近年、頭頸部癌、前立腺癌、乳癌などにおいて、癌組織内の自律神経 (交感神経・副交感神経) 系の存在が予後不良因子となることが報告されている。実験的に交感神経を抑制または除去した場合は、癌の縮小や転移の抑制が観察され、癌細胞と神経の相互作用を標的とした新たな治療法の開発が期待されている。しかし、SDC においては、癌と神経の相互作用について、全く検討されていない。

## 2. 研究の目的

SDC の CAB 療法は従来の化学療法と同等の治療効果ながら有害事象が少なく安全性が高かった。また、抗 HER2 療法は従来法よりも治療効果が高かった。CAB 療法、抗 HER2 療法、従来の化学療法を適切に選択する必要があるが、治療効果を予測できるバイオマーカーの報告はほとんどなされていない。本研究の目的の一つは CAB 療法と抗 HER2 療法の治療効果予測因子を探索することである。

一方、近年、唾液腺癌に対し ICI がセカンドラインの治療薬として有望であると報告されているが、奏効率が低いことが課題となっている。TMB が高いとされる SDC ではこれらの薬剤治療の効果が期待されるが、効果予測因子は明らかになっていない。本研究では 300 例に及ぶ大規模な SDC 症例の解析を行うことで、SDC の薬物療法において新たなセカンドラインの開発に向けての有用な情報が得ることを目指す。

更に、SDC における癌組織内の自律神経 (交感神経・副交感神経) と予後、バイオマーカー発現、および遺伝子異常といった臨床・分子病理学的所見との関連性をみることにより、本腫瘍に対する新たな治療の可能性を探る。

## 3. 研究の方法

研究対象は、本学を含む全国多施設共同研究 (全 9 施設) により集積された SDC 症例約 300 例の病理標本と臨床情報である。

### (1) CAB 療法と抗 HER2 療法の治療効果予測因子の探索

CAB 療法あるいは抗 HER2 治療を施行した症例を含む SDC 症例について、前立腺癌や乳癌において治療効果予測因子や治療耐性化の機序に関与している分子を中心に以下の項目について臨床病理学および分子病理学的に探索する。

- ・炎症・栄養血液学的指標 (血清 Alb 値, CRP 値, 好中球数, リンパ球数, 血小板数, 好中球数/リンパ球数比, 血小板数/リンパ球数比, modified Glasgow Prognostic Score [mGPS])
- ・病理組織学的所見 (核多形, 核分裂, 簇出, 低分化胞巣, 脈管侵襲, および神経浸潤を指標とした組織学的リスク分類, 多形腺腫成分の有無, 腺外浸潤の有無, リンパ節転移節外浸潤)
- ・各種バイオマーカー (免疫組織化学染色・FISH 法: AR, ER $\beta$ , EGFR, HER2, HER3, MUC1, PLAG1, p53, CK5/6, Ki-67, PI3K, p-Akt, p-mTOR, PTEN, FOXA1, Adipophilin, FASN, EZH2, H3K27me3, 免疫組織化学的サブタイプ分類)
- ・網羅的遺伝子解析 (Sanger 法・次世代シーケンシング: 遺伝子変異 *TP53/PIK3CA* (図 2) /*HRAS/HER2/AKT1* を含む), 融合遺伝子検出 [*NTRK1-3/ALK/FGFR1-3/NOTCH1* を含む], コピー数多型, mutational signature, スプライシング異常の検出)
- ・CAB 療法症例のみ対象: AR-V7 を含む AR 関連遺伝子発現, *FOXA1/HSD3B1* 変異

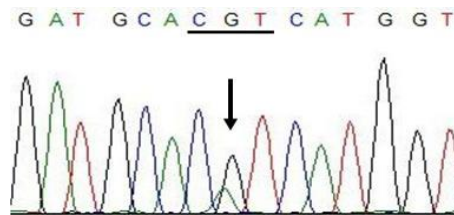


図 2. *PIK3CA* 遺伝子変異 (exon 20, H1047R)

### (2) ICI 療法に向けた癌免疫微小環境の評価

① HE 標本を用いた腫瘍間質浸潤リンパ球 (sTILs) の評価  
乳癌の International TILs Working Group の基準に従い、sTILs を評価する。

② 免疫組織化学染色・遺伝子解析

- ・腫瘍に浸潤する炎症性細胞: [T リンパ球系] CD3, CD4, CD8 (図 3), CD45RO, FOXP3;

[Bリンパ球系] CD20, CD79a; [好中球系] CD66b; [マクロファージ系] CD68, CD163, HLA-DR  
上記炎症細胞マーカー発現細胞の腫瘍実質と間質における浸潤様式を評価し、SDC に対する炎症細胞浸潤のプロファイリングを行う。

- ・免疫チェックポイント蛋白の発現: PD-1 (NAT105), PD-L1 (SP263), CTLA-4, LAG3
- ・DNA ミスマッチ修復蛋白 (MLH1, MSH2, PMS2, MSH6) の発現消失 (dMMR)
- ・マイクロサテライト不安定性 (MSI) 検査

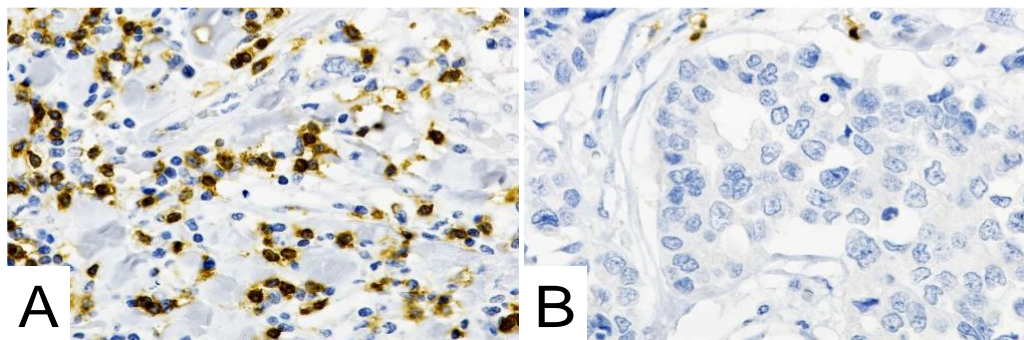


図 3. CD8 免疫染色. A: 陽性細胞多数例, B: 少数例

(3) 癌組織内の末梢神経と自律神経の同定と、神経成長因子の評価

①癌組織内の末梢神経の同定

HE 染色標本 (図 4A) と S-100 蛋白免疫組織化学染色標本を用いる。

②癌組織内の自律神経の同定

交感神経系マーカーである TH (図 4B) および副交感神経系マーカーである VAcHt (図 4C) と CHAT に対する免疫組織化学染色標本を用いる。また TH と VAcHt の蛍光二重染色で同一神経内の TH と VAcHt の局在を確認する。

③画像解析

上記の末梢神経と自律神経の面積は、顕微鏡 100 倍で 3 視野選んで画像解析ソフト (ImageJ) を用いて定量的に評価する。なお、自律神経に関しては、組織内で最も発現の強いところを選択する。

④癌組織内の神経成長因子の評価

腫瘍における BDNF,  $\beta$ -NGF などの神経成長に関わる因子の発現を免疫組織化学染色にて検討し、腫瘍内の自律神経との相関を解析する。

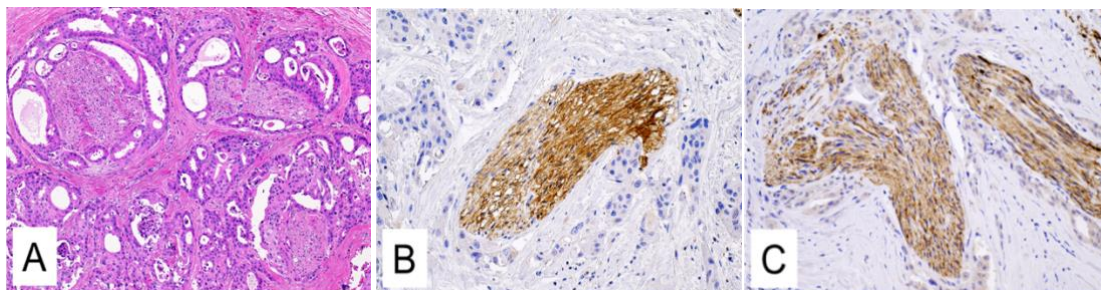


図 4. 唾液腺導管癌における末梢神経と自律神経.

A: 癌組織内末梢神経, B: TH 陽性交感神経, C: VAcHt 陽性副交感神経

(4) 統計解析

以上の (1), (2), (3) で得られた結果と、これまでの多施設共同研究で得られた下記項目との関連性をロジスティック回帰分析およびコックス比例ハザードモデル等の解析法で検定する。

- ・上述した炎症・栄養血液学的指標, 病理組織学的所見, 各種バイオマーカー, 遺伝子異常
- ・根治手術例の T, N 分類, PFS, OS
- ・CAB 療法, 抗 HER2 療法, カルボプラチン・ドセタキセル併用療法, ニボルマブ投与症例のそれぞれの奏効率, 臨床的有用率, mPFS, mOS

#### 4. 研究成果

(1) EZH2 高発現は SDC の CAB 療法における効果不良予測因子

EZH2 はメチル化転移酵素活性を持ち, H3K27me3 を介して癌抑制遺伝子を抑制し, 癌の発育・進展に寄与している。EZH2 と H3K27me3 の過剰発現は種々の癌で予後不良因子であるだけでなく, 前立腺癌の CAB 療法と乳癌の抗 HER2 療法それぞれの耐性にも関与している。しかし, SDC における EZH2 と H3K27me3 の予後や治療効果予測を含む臨床病理学的意義は明らかになっていなかった。226 例の SDC を対象に, 免疫組織化学的に EZH2 と H3K27me3 の発現率 (%) を評価し, それぞれ高発現群と低発現群に分けた。更に *EZH2* Y646 の機能獲得型変異の有無をサンガー法で確認した。CAB 療法群と抗 HER2 療法群, CAB 療法と抗 HER2 療法が行われていない従来治療群の 3 群に分けて, 予後や治療効果との関連を検討した。殆どの症例で EZH2 と H3K27me3 の発現

が認められた。EZH2 と H3K27me3 の発現は正の相関を示した。抗 AR 療法群では EZH2 高発現症例の OS・PFS が有意に短く臨床的有用率・奏功率も低かった (図 4)。同様に抗 AR 療法群で H3K27me3 高発現症例も有意に OS が短かった。一方、抗 HER2 療法群と従来治療群では EZH2・H3K27me3 の発現と予後・治療効果との関連はなかった。EZH2 Y646 変異を有する症例は認められなかった。

今回の検討では、抗 AR 療法群でのみ EZH2 と H3K27me3 の高発現が予後不良因子であり、EZH2 高発現については抗 AR 療法の効果不良予測因子でもあった。これらのデータは、SDC の治療戦略の発展に寄与すると考えられる。

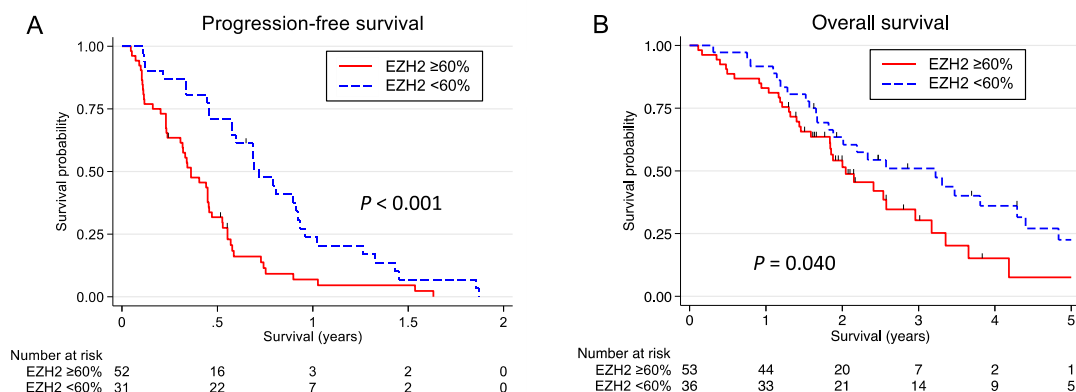


図 4. CAB 療法が行われた唾液腺導管癌では EZH2 高発現が効果不良予測因子である  
A: 無増悪生存期間, B: 全生存期間

### (2) SDC における癌免疫微小環境の臨床病理学的意義

175 例の SDC 症例を解析したところ、PD1, PD-L1, CTLA4, CD8, FOXP3, LAG3 については、PD1 と PD-L1 の組み合わせ以外では、全て正の相関がみられた。PD1, CTLA4, CD8, FOXP3, LAG3 の高値群は、低値群と比べて、組織学的高悪性度、転移陽性、Ki-67 高標識率を示した。CTLA4, CD8, FOXP3, LAG3 高値群については、予後不良の傾向が認められた。更に PD-L1 の CPS の高値群は、組織学的高悪性度で、予後不良を示した。TILs については臨床病理学的因子との相関はみられなかった。また MSI を示す症例は認められなかった。

PD1, PD-L1, CTLA4, CD8, FOXP3, LAG3 陽性の細胞は相互作用を示し、SDC の増殖と進展に寄与していることが示唆される。更に、PD-1, PD-L1 (CPS), CTLA4, CD8, FOXP3, LAG3 は、SDC の予後不良因子である可能性がある。本研究成果は SDC に対する ICI 療法を行う上で重要な基礎的データになり得ると考えられる。

### (3) SDC において癌組織内の自律神経の存在は予後不良因子

129 例の SDC 症例を対象とした。癌組織内に末梢神経が確認できた 94 例のうち、92 例で自律神経が認められた。それらの症例のうち、66 例では交感神経・副交感神経が共にみられ、副交感神経のみが存在していた症例は 26 例であった (図 5A, B)。交感神経のみが存在した症例はなかった。交感神経・副交感神経が共に存在した 66 例のうち 59 例で、同一神経における TH と VAcHt の陽性像が確認された (図 5C)。癌組織内の自律神経の存在はリンパ管・静脈・神経侵襲や de novo 発生、cT 分類、リンパ節転移等の臨床病理学的事項と相関があり、また単変量および多変量解析にて予後不良因子であることが示された。さらに、副交感神経のみが存在した症例よりも、交感神経・副交感神経が共に存在した症例でより予後が悪かった。神経成長因子と自律神経との相関は認められなかった。

SDC において、自律神経の存在は癌の進展度や予後に影響していることが示された。癌組織が自律神経を誘導することによって、より癌の進展に有利な微小環境が形成されている可能性がある。

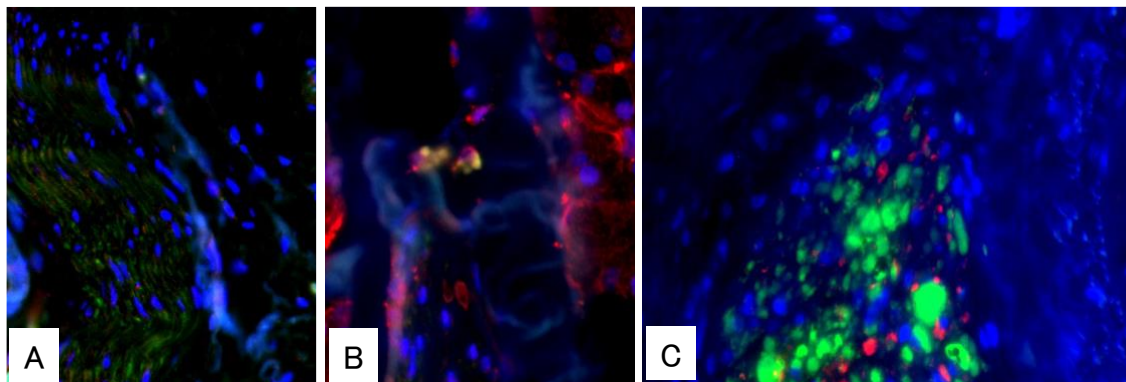


図 5. 自律神経の蛍光二重染色 (TH [交感神経]: 緑, VAcHt [副交感神経]: 赤).  
A: 非腫瘍部の交感神経, B: 非腫瘍部の副交感神経, C: 癌部の自律神経 (TH, VAcHt いずれも陽性)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計72件（うち査読付論文 72件／うち国際共著 13件／うちオープンアクセス 37件）

1. 著者名 Tokuyama Naoto, Saito Akira, Muraoka Ryu, Matsubara Shuya, Hashimoto Takeshi, Satake Naoya, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka, Mirza Aashiq H., Graf Hans-Peter, Cosatto Eric, Wu Chin-Lee, Kuroda Masahiko, Ohno Yoshio	4. 巻 35
2. 論文標題 Prediction of non-muscle invasive bladder cancer recurrence using machine learning of quantitative nuclear features	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Modern Pathology	6. 最初と最後の頁 533 ~ 538
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41379-021-00955-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Sakamoto Shinnichi, Miyauchi Mutsumi, Ando Toshinori, Fujihara Megumu, Nakaguro Masato, Nagao Toshitaka, Ogawa Ikuko	4. 巻 72
2. 論文標題 Non sebaceous lymphadenoma like mucoepidermoid carcinoma: A case report	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Pathology International	6. 最初と最後の頁 371 ~ 375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pin.13236	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Nakaguro Masato, Sadow Peter M., Hu Rong, Hattori Hikaru, Kuwabara Kyoko, Tsuzuki Toyonori, Urano Makoto, Nagao Toshitaka, Faquin William C.	4. 巻 16
2. 論文標題 NKX3.1 Expression in Salivary Gland "Intraductal" Papillary Mucinous Neoplasm: A Low-Grade Subtype of Salivary Gland Mucinous Adenocarcinoma	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Head and Neck Pathology	6. 最初と最後の頁 1114 ~ 1123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12105-022-01471-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 Shinohara Shizu, Bychkov Andrey, Munkhdelger Jijgee, Kuroda Kishio, Yoon Han-Seung, Fujimura Shota, Tabata Kazuhiro, Furusato Bungo, Niino Daisuke, Morimoto Shinpei, Yao Takashi, Itoh Tomoo, Aoyama Hajime, Tsuyama Naoko, Mikami Yoshiki, Nagao Toshitaka, Oda Yoshinao, Fukuoka Junya	4. 巻 481
2. 論文標題 Substantial improvement of histopathological diagnosis by whole-slide image-based remote consultation	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Virchows Archiv	6. 最初と最後の頁 295 ~ 305
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00428-022-03327-2	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Fukumura Masahiro, Ishibashi Kenichiro, Nakaguro Masato, Nagao Toshitaka, Warnakulasuriya Saman, Miyabe Satoru, Nagao Toru	4. 巻 51
2. 論文標題 Salivary gland polymorphous adenocarcinoma: Clinicopathological features and gene alterations in 36 Japanese patients	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Oral Pathology & Medicine	6. 最初と最後の頁 710 ~ 720
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jop.13336	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Kawakita Daisuke, Nagao Toshitaka, Takahashi Hideaki, Saotome Takashi, Tada Yuichiro	4. 巻 14
2. 論文標題 Survival benefit of HER2-targeted or androgen deprivation therapy in salivary duct carcinoma	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Therapeutic Advances in Medical Oncology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/17588359221119538	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kasahara Kenta, Katsumata Kenji, Saito Akira, Ishizaki Tetsuo, Enomoto Masanobu, Mazaki Junichi, Tago Tomoya, Nagakawa Yuichi, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka, Hirano Hiroshi, Kuroda Masahiko, Tsuchida Akihiko	4. 巻 27
2. 論文標題 Artificial intelligence predicts lymph node metastasis or risk of lymph node metastasis in T1 colorectal cancer	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 1570 ~ 1579
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10147-022-02209-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Goto Keisuke, Yoshikawa Shusuke, Kiyohara Yoshio, Kurimoto Toru, Nomi Kyoko, Ogawa Kohei, Tasaki Koichiro, Kajiwara Manami, Nagao Toshitaka, Umazume Kazuhiko, Oishi Takuma	4. 巻 44
2. 論文標題 Large Cell Neuroendocrine Carcinoma of the Skin/Conjunctiva: A Series of 6 Cases including 1 Combined Case With Squamous Cell Carcinoma	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The American Journal of Dermatopathology	6. 最初と最後の頁 718 ~ 727
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/DAD.0000000000002229	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsuyama Hiroshi, Ueki Yushi, Okamoto Isaku, Nagao Toshitaka, Yokoshima Kazuhiko, Miura Koki, Kitani Yosuke, Horii Arata	4. 巻 9
2. 論文標題 Head and neck small-cell carcinoma: A multicenter study of 39 cases from 10 institutions	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Frontiers in Surgery	6. 最初と最後の頁 1049116
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fsurg.2022.1049116	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kohsaka Shinji, Tada Yuichiro, Ando Mizuo, Nakaguro Masato, Shirai Yukina, Nagao Toshitaka, Mano Hiroyuki	4. 巻 6
2. 論文標題 Identification of novel prognostic and predictive biomarkers in salivary duct carcinoma via comprehensive molecular profiling	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 npj Precision Oncology	6. 最初と最後の頁 82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41698-022-00324-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 NEGISHI YUI, OKAMOTO ISAKU, UEDA YURI, SATO HIROKI, TANIGAWA MAKI, NAGAO TOSHITAKA, TSUKAHARA KIYOAKI	4. 巻 36
2. 論文標題 Complete Response to Nivolumab of Resected Adenocarcinoma NOS With Parotid Gland Origin and Lung Metastasis	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 In Vivo	6. 最初と最後の頁 2840 ~ 2843
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.21873/invivo.13023	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hongo Hiroki, Miyawaki Satoru, Teranishi Yu, Nagao Toshitaka, Goto Hiroshi, Takahashi Shin-ichiro, Ushiku Tetsuo, Ishikawa Shumpei, Okazaki Mutsumi, Morishita Shinichi, Tsuji Shoji, Saito Nobuhito	4. 巻 26
2. 論文標題 Somatic GJA4 gain-of-function mutation in orbital cavernous venous malformations	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Angiogenesis	6. 最初と最後の頁 37 ~ 52
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10456-022-09846-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Takeuchi Hirohito, Sugimoto Katsutoshi, Kakegawa Tatsuya, Tomita Yusuke, Takahashi Hiroshi, Wada Takuya, Abe Masakazu, Yoshimasu Yu, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka, Itoi Takao	4. 巻 53
2. 論文標題 The usefulness of a newly developed full core biopsy needle in liver biopsy	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Hepatology Research	6. 最初と最後の頁 247 ~ 257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/hepr.13856	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 KOMATSU HIROYUKI, USUI YOSHIHIKO, SUKEDA AOI, YAMAMOTO YOSHINARI, OHNO SHIN-ICHIRO, GOTO KEISUKE, KURODA MASAHICO, NAGAO TOSHITAKA, GOTO HIROSHI	4. 巻 249
2. 論文標題 Prevalence of Merkel Cell Polyomavirus in Primary Eyelid Merkel Cell Carcinomas and Association With Clinicopathological Features	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 American Journal of Ophthalmology	6. 最初と最後の頁 49 ~ 56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajo.2022.12.001	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Keisuke Yamana, Kenta Kawahara, Fumi Kawakami, Yumi Honda, Kohei Ishikawa, Kosuke Shinohara, Junki Sakata, Akiyuki Hirotsue, Ryoji Yoshida, Natsuko Kimoto, Toshitaka Nagao, Yoshiki Mikami, Hideki Nakayama	4. 巻 35
2. 論文標題 Hyalinizing clear cell carcinoma with EWSR1 rearrangement in an 11-year-old girl	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 J Oral Maxillofac Surg, Med, Pathol	6. 最初と最後の頁 258 ~ 263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Sujino Hiroki, Kasahara Kenta, Tanigawa Maki, Enomoto Masanobu, Udo Ryutarō, Tago Tomoya, Okazaki Naoto, Mazaki Junichi, Ishizaki Tetsuo, Nagao Toshitaka, Katsumata Kenji, Tsuchida Akihiko, Nagakawa Yuichi	4. 巻 -
2. 論文標題 Retroperitoneal hibernoma resected via laparoscopic surgery	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Asian Journal of Endoscopic Surgery	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/ases.13160	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長尾俊孝	4. 巻 1
2. 論文標題 【知っておきたい病理の知識】唾液腺腫瘍の病理（悪性腫瘍）	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 耳鼻咽喉科	6. 最初と最後の頁 615～623
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 長尾俊孝	4. 巻 40
2. 論文標題 鑑別の森 唾液腺のリンパ上皮唾液腺炎とMALTリンパ腫(第9回) Answer(1)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 病理と臨床	6. 最初と最後の頁 591～594
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中黒 匡人, 長尾 俊孝	4. 巻 40
2. 論文標題 今月の話題 唾液腺腫瘍の病理診断における遺伝子異常の代替的免疫染色マーカー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 病理と臨床	6. 最初と最後の頁 940～944
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田 康雄, 楯 玄秀, 川崎 正義, 竹山 信之, 長尾 俊孝, 小川 高史	4. 巻 39
2. 論文標題 耳下腺に発生した骨外性骨肉腫(Extraskeletal osteosarcoma)の1例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 診断病理	6. 最初と最後の頁 273～281
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平田 幸也, 樋口佳代子, 長尾 俊孝, 瑞慶覧陽子, 金城 貴夫, 和田 直樹	4. 巻 61
2. 論文標題 耳下腺に発生した導管内癌の1例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本臨床細胞学会雑誌	6. 最初と最後の頁 431 ~ 437
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木村 祐太, 宮岡 良卓, 辻川 祐香, 永井 麻梨恵, 荒井 誠大, 家村 文香, 知名 理絵子, 長井 美穂, 長岡 由女, 平井 秀明, 長尾 俊孝, 菅野 義彦	4. 巻 56
2. 論文標題 Collagenous colitisの軽快に伴い高度な炎症および貧血が著明に改善した末期腎不全の1例	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本透析医学会雑誌	6. 最初と最後の頁 63 ~ 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yunaiyama Daisuke, Okubo Mitsuru, Arizono Eri, Tsukahara Kiyooki, Tanigawa Maki, Nagao Toshitaka, Saito Kazuhiro	4. 巻 279
2. 論文標題 Sarcopenia at the infrahyoid level as a prognostic factor in patients with advanced-stage non-virus-related head and neck carcinoma	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 European Archives of Oto-Rhino-Laryngology	6. 最初と最後の頁 3131 ~ 3137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00405-021-07147-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nagai Kazumasa, Sofuni Atsushi, Tsuchiya Takayoshi, Kono Shin, Ishii Kentaro, Tanaka Reina, Tonozuka Ryosuke, Mukai Shuntaro, Yamamoto Kenjiro, Matsunami Yukitoshi, Asai Yasutsugu, Kurosawa Takashi, Kojima Hiroyuki, Yamaguchi Hiroshi, Nagao Toshitaka, Itoi Takao	4. 巻 10
2. 論文標題 Efficacy of the Franseen needle for diagnosing gastrointestinal submucosal lesions including small tumors	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Endoscopic Ultrasound	6. 最初と最後の頁 424 ~ 430
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4103/EUS-D-21-00035	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Endo Kenji, Matsubayashi Jun, Sawaji Yasunobu, Murata Kazuma, Konishi Takamitsu, Nagao Toshitaka, Yamamoto Kengo	4. 巻 26
2. 論文標題 Histopathological characteristics of cervical extensor tissue in patients with dropped head syndrome	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Journal of Medical Research	6. 最初と最後の頁 135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40001-021-00605-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Jigjidkhorloo Narangerel, Kanekura Kohsuke, Matsubayashi Jun, Akahane Daigo, Fujita Koji, Oikawa Keiki, Kurata Atsushi, Takanashi Masakatsu, Endou Hitoshi, Nagao Toshitaka, Gotoh Akihiko, Norov Oyundelger, Kuroda Masahiko	4. 巻 11
2. 論文標題 Expression of L-type amino acid transporter 1 is a poor prognostic factor for Non-Hodgkin's lymphoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 21638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-00811-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Hoshino Miyako, Inoue Katsuyuki, Kaneda Tomohisa, Nishimura Michiko, Kusama Kaoru, Sakashita Hideaki, Sato Yukiko, Takeuchi Kengo, Nagao Toshitaka, Kikuchi Kentaro	4. 巻 2021
2. 論文標題 A Case of Buccal Clear Cell Carcinoma Caused by Rare Fusion Gene: EWSR1-CREM	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Case Reports in Dentistry	6. 最初と最後の頁 5557247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1155/2021/5557247	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yunaiyama Daisuke, Okubo Mitsuru, Arizono Eri, Tsukahara Kiyooki, Tanigawa Maki, Nagao Toshitaka, Saito Kazuhiro	4. 巻 in press
2. 論文標題 Sarcopenia at the infrahyoid level as a prognostic factor in patients with advanced-stage non-virus-related head and neck carcinoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Archives of Oto-Rhino-Laryngology	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00405-021-07147-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Makino Kensaku, Nakajima Kei, Tsutsumi Satoshi, Toriyama Akane, Nonaka Senshu, Okura Hidehiro, Matsuzaka Kenichi, Nagao Toshitaka, Izumi Hiroshi, Tomita Shigeki, Ishii Hisato	4. 巻 16
2. 論文標題 Mucoepidermoid carcinoma of the lacrimal gland in a patient with the CRTC1-MAML2 fusion gene	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Radiology Case Reports	6. 最初と最後の頁 3643 ~ 3646
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.radcr.2021.08.075	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Niidome Erina, Usui Yoshihiko, Takahashi Reisuke, Nagao Toshitaka, Goto Hiroshi	4. 巻 100
2. 論文標題 Vitreoretinal lymphoma occurring after systemic chemotherapy for primary conjunctival diffuse large B cell lymphoma: A case report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Medicine (Baltimore)	6. 最初と最後の頁 e27347
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/MD.00000000000027347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Lisa, Ishigami Tomoaki, Tomiyama Hirofumi, Kato Yuko, Kikuchi Hiroyuki, Tasaki Koichiro, Yamashita Jun, Inoue Shigeru, Taguri Masataka, Nagao Toshitaka, Chikamori Taishiro, Ishikawa Yoshihiro, Yokoyama Utako	4. 巻 10
2. 論文標題 Increased Plasma Levels of Myosin Heavy Chain 11 Is Associated with Atherosclerosis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Clinical Medicine	6. 最初と最後の頁 3155
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/jcm10143155	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Lassche Gerben, Tada Yuichiro, van Herpen Carla M. L., Jonker Marianne A., Nagao Toshitaka, Saotome Takashi, Hirai Hideaki, Saigusa Natsuki, Takahashi Hideaki, Ojiri Hiroya, van Engen-Van Grunsven Adriana C. H., Schalken Jack A., Fushimi Chihiro, Verhaegh Gerald W.	4. 巻 13
2. 論文標題 Predictive and Prognostic Biomarker Identification in a Large Cohort of Androgen Receptor-Positive Salivary Duct Carcinoma Patients Scheduled for Combined Androgen Blockade	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancers	6. 最初と最後の頁 3527
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/cancers13143527	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kiya Yoshitaka, Nagakawa Yuichi, Takishita Chie, Osakabe Hiroaki, Nishino Hitoe, Akashi Masanori, Yamaguchi Hiroshi, Nagao Toshitaka, Oono Ryo, Katsumata Kenji, Tsuchida Akihiko	4. 巻 21
2. 論文標題 Neuroendocrine carcinoma of the common bile duct associated with congenital bile duct dilatation: a case report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 BMC Gastroenterology	6. 最初と最後の頁 257
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12876-021-01777-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Suzuki Kunihito, Saito Kazuhiro, Yamada Takafumi, Arizono Ely, Kumita Hidehiro, Kasahara Kenta, Katsumata Kenji, Tasaki Koichiro, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka	4. 巻 17
2. 論文標題 Perilesional Lymph Node Swelling Might be a Radiologic Clue for Appendiceal Schwannoma: A Case Report	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Medical Imaging Formerly Current Medical Imaging Reviews	6. 最初と最後の頁 1266 ~ 1270
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/1573405617666210608152957	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Bishop Justin A., Sajed Dipti P., Weinreb Ilan, Assaad Adel, Nagao Toshitaka, Kawakami Fumi, Nakaguro Masato, Zahir Ismail, Wakeman Kristina, Ihrler Stephan, Chenevert Jacinthe, Lin Yi-Ling, Westra William H., Gagan Jeffrey, Rooper Lisa M.	4. 巻 15
2. 論文標題 Microsecretory Adenocarcinoma of Salivary Glands: An Expanded Series of 24 Cases	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Head and Neck Pathology	6. 最初と最後の頁 1192 ~ 1201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12105-021-01331-7	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Miyaoaka Yoshitaka, Okada Tomonari, Tomiyama Hirofumi, Morikawa Atsuko, Rinno Sho, Kato Miho, Tsujimoto Ryuji, Suzuki Rie, China Rieko, Nagai Miho, Nagaoka Yume, Nagao Toshitaka, Kanno Yoshihiko	4. 巻 44
2. 論文標題 Structural changes in renal arterioles are closely associated with central hemodynamic parameters in patients with renal disease	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Hypertension Research	6. 最初と最後の頁 1113 ~ 1121
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41440-021-00656-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Asai Satsuki, Sumiyoshi Shinji, Yamada Yosuke, Tateya Ichiro, Nagao Toshitaka, Minamiguchi Sachiko, Haga Hironori	4. 巻 71
2. 論文標題 High grade salivary gland carcinoma with the ETV6 NTRK3 gene fusion: A case report and literature review of secretory carcinoma with high grade transformation	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Pathology International	6. 最初と最後の頁 427 ~ 434
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pin.13100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Shimada Yoshihisa, Matsubayashi Jun, Kudo Yujin, Maehara Sachio, Takeuchi Susumu, Hagiwara Masaru, Kakihana Masatoshi, Ohira Tatsuo, Nagao Toshitaka, Ikeda Norihiko	4. 巻 11
2. 論文標題 Serum-derived exosomal PD-L1 expression to predict anti-PD-1 response and in patients with non-small cell lung cancer	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 7830
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-021-87575-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Masuno Ryuhei, Yunaiyama Daisuke, Shishido-Hara Yukiko, Yoshimaru Daisuke, Maruyama Chifumi, Araki Yoichi, Goto Hiroshi, Nagao Toshitaka, Saito Kazuhiro	4. 巻 105
2. 論文標題 Magnetic Resonance Imaging of Orbital Solitary Fibrous Tumors: Radiological-Pathological Correlation Analysis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the Belgian Society of Radiology	6. 最初と最後の頁 14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5334/jbsr.2097	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Yunaiyama Daisuke, Saito Kazuhiro, Yamaguchi Hiroshi, Nagakawa Yuichi, Harada Taiyo Leopoldo, Nagao Toshitaka	4. 巻 17
2. 論文標題 Use of Gadoteric Acid-enhanced MRI to Predict the Development of Postoperative Pancreatic Fistulas by Estimating the Degree of Pancreatic Fibrosis	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Medical Imaging Formerly Current Medical Imaging Reviews	6. 最初と最後の頁 1191 ~ 1199
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2174/1573405617666210311114017	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takahashi Reisuke H., Yokotsuka Mayumi, Tobiume Minoru, Sato Yuko, Hasegawa Hideki, Nagao Toshitaka, Gouras Gunnar K.	4. 巻 31
2. 論文標題 Accumulation of cellular prion protein within amyloid oligomer plaques in aged human brains	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Brain Pathology	6. 最初と最後の頁 e12941
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/bpa.12941	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Nakajima Eri, Kudo Yujin, Maehara Sachio, Furumoto Hideyuki, Matsubayashi Jun, Shimada Yoshihisa, Hagiwara Masaru, Nagao Toshitaka, Ohira Tatsuo, Ikeda Norihiko	4. 巻 7
2. 論文標題 Ruptured mediastinal mature teratoma causing severe mediastinitis: report of a surgically resected case and a literature review	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Surgical Case Reports	6. 最初と最後の頁 48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s40792-021-01132-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakaguro Masato, Nagao Toshitaka	4. 巻 14
2. 論文標題 Epithelial Myoepithelial Carcinoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Surgical Pathology Clinics	6. 最初と最後の頁 97 ~ 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.path.2020.10.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakaguro Masato, Tanigawa Maki, Hirai Hideaki, Yamamoto Yoshinari, Urano Makoto, Takahashi Reisuke H., Sukeda Aoi, Okumura Yuki, Honda Shogo, Tasaki Koichiro, Shimizu Akira, Tsukahara Kiyooki, Tada Yuichiro, Matsubayashi Jun, Faquin William C., Sadow Peter M., Nagao Toshitaka	4. 巻 45
2. 論文標題 The Diagnostic Utility of RAS Q61R Mutation-specific Immunohistochemistry in Epithelial-Myoepithelial Carcinoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 American Journal of Surgical Pathology	6. 最初と最後の頁 885-894
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/PAS.0000000000001673	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Nakaguro Masato, Mino-Kenudson Mari, Urano Makoto, Ogawa Ikuko, Honda Yumi, Hirai Hideaki, Tanigawa Maki, Sukeda Aoi, Kajiwara Naohiro, Ohira Tatsuo, Ikeda Norihiko, Mikami Yoshiki, Tada Yuichiro, Ikeda Jun-Ichiro, Matsubayashi Jun, Faquin William C., Sadow Peter M., Nagao Toshitaka	4. 巻 45
2. 論文標題 Sialadenoma Papilliferum of the Bronchus: An Unrecognized Bronchial Counterpart of the Salivary Gland Tumor With Frequent BRAF V600E Mutations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 American Journal of Surgical Pathology	6. 最初と最後の頁 662 ~ 671
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/PAS.0000000000001657	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Morita Naruhiko, Murase Takayuki, Ueda Kaori, Nagao Toshitaka, Tada Yuichiro, Tsukahara Kiyooki, Okami Kenji, Onitsuka Tetsuro, Fujimoto Yasushi, Kawakita Daisuke, Sakurai Kazuo, Nagao Toru, Hanai Nobuhiro, Kawata Ryo, Hato Naohito, Otsuki Naoki, Nibu Ken ichi, Inagaki Hiroshi	4. 巻 112
2. 論文標題 Pathological evaluation of tumor grade for salivary adenoid cystic carcinoma: A proposal of an objective grading system	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 1184 ~ 1195
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.14790	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Bishop Justin A, Nakaguro Masato, Whaley Rumeal D, Ogura Kanako, Imai Hiroshi, Lakloulk Israa, Faquin William C, Sadow Peter M, Gagan Jeffrey, Nagao Toshitaka	4. 巻 79
2. 論文標題 Oncocytic intraductal carcinoma of salivary glands: a distinct variant with TRIM33-RET fusions and BRAF V600E mutations	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Histopathology	6. 最初と最後の頁 338 ~ 346
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/his.14296	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Abe Hironori, Suwanai Hirotsugu, Kambara Nodoka, Sano Koji, Shikuma Junpei, Akaoka Hiroaki, Kanazawa Akira, Hirai Hideaki, Miwa Takashi, Nagao Toshitaka, Odawara Masato	4. 巻 60
2. 論文標題 A Rare Case of Ectopic Adrenocorticotrophic Hormone Syndrome with Recurrent Olfactory Neuroblastoma	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Internal Medicine	6. 最初と最後の頁 105 ~ 109
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2169/internalmedicine.2897-19	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ito Tatsuya, Sato Hiroki, Tsujikawa Takahiro, Hirai Hideaki, Okamoto Isaku, Miyake Keitaro, Nagao Toshitaka, Tsukahara Kiyooki	4. 巻 48
2. 論文標題 Neck dissection prolongs survival in patient with stage IVC hypopharyngeal carcinoma with mixed responses to nivolumab	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Auris Nasus Larynx	6. 最初と最後の頁 322 ~ 326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anl.2020.02.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takano Hiroshi, Fukuda Masayuki, Hatakeyama Shigetomo, Konno Yasunori, Yamazaki Masato, Igarashi Hidemitsu, Nanjo Hiroshi, Nagao Toshitaka, Yoshioka Toshiaki	4. 巻 33
2. 論文標題 A case of secretory carcinoma of the minor salivary gland in the buccal mucosa	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology	6. 最初と最後の頁 136 ~ 140
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ajoms.2020.08.009	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 稲垣夏子, 桐林和代, 梅津知宏, 武内進, 備後真登, 助田葵, 金蔵孝介, 長尾俊孝, 沼部博直, 林由起子, 池田徳彦, 河島尚志, 黒田雅彦, 吉村明修	4. 巻 79
2. 論文標題 東京医科大学病院におけるがんゲノム医療の現状と取り組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東京医科大学雑誌	6. 最初と最後の頁 141-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakaguro Masato, Tada Yuichiro, Faquin William C., Sadow Peter M., Wirth Lori J., Nagao Toshitaka	4. 巻 128
2. 論文標題 Salivary duct carcinoma: Updates in histology, cytology, molecular biology, and treatment	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cancer Cytopathology	6. 最初と最後の頁 693 ~ 703
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/cncy.22288	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Komatsu Hirokazu, Kumoi Kazuo, Inokuchi Go, Hashimoto Kimio, Nagao Toshitaka, Otsuki Naoki, Nibu Ken-ichi	4. 巻 47
2. 論文標題 Keratocystoma of the parotid gland	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Auris Nasus Larynx	6. 最初と最後の頁 481 ~ 484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.anl.2019.05.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ueda Kaori, Murase Takayuki, Nagao Toshitaka, Kusafuka Kimihide, Urano Makoto, Yamamoto Hidetaka, Nakaguro Masato, Taguchi Ken ichi, Masaki Ayako, Hirai Hideaki, Kawakita Daisuke, Tsukahara Kiyooki, Hato Naohito, Nagao Toru, Fujimoto Yasushi, Sakurai Kazuo, Hanai Nobuhiro, Kano Satoshi, Onitsuka Tetsuro, Tada Yuichiro	4. 巻 42
2. 論文標題 Central pathology review of salivary gland adenoid cystic carcinoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Head & Neck	6. 最初と最後の頁 1721 ~ 1727
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/hed.26081	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakamura Itaru, Watanabe Yusuke, Nagao Toshitaka, Itoi Takao, Watanabe Hidehiro	4. 巻 98
2. 論文標題 Painful proctitis with mixed infection due to herpes simplex virus types 1 and 2 and Chlamydia trachomatis	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 406 ~ 407
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijid.2020.07.002	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okumura Yoshihide, Nakano Satsuki, Murase Takayuki, Ueda Kaori, Kawakita Daisuke, Nagao Toshitaka, Kusafuka Kimihide, Urano Makoto, Yamamoto Hidetaka, Kano Satoshi, Tsukahara Kiyooki, Okami Kenji, Nagao Toru, Hanai Nobuhiro, Iwai Hiroshi, Kawata Ryo, Tada Yuichiro, Nibu Ken ichi, Inagaki Hiroshi	4. 巻 111
2. 論文標題 Prognostic impact of CRTX1/3 MAML2 fusions in salivary gland mucoepidermoid carcinoma: A multiinstitutional retrospective study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cancer Science	6. 最初と最後の頁 4195 ~ 4204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/cas.14632	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Niwa Kazutomo, Kawakita Daisuke, Nagao Toshitaka, Takahashi Hideaki, Saotome Takashi, Okazaki Masashi, Yamazaki Keisuke, Okamoto Isaku, Hirai Hideaki, Saigusa Natsuki, Fushimi Chihiro, Masubuchi Tatsuo, Miura Kouki, Okazaki Shin-ichi, Matsui Hirooki, Okada Takuro, Iwaki Sho, Matsuki Takashi, Hanyu Kenji, Tada Yuichiro	4. 巻 10
2. 論文標題 Multicentre, retrospective study of the efficacy and safety of nivolumab for recurrent and metastatic salivary gland carcinoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Scientific Reports	6. 最初と最後の頁 16988 ~ 16988
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1038/s41598-020-73965-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Obikane Hiyo, Fujiyoshi Toshiki, Takahashi Satoshi, Ogino Hitoshi, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka, Ishibashi-Ueda Hatsue	4. 巻 46
2. 論文標題 Giant cell arteritis in a patient with aortic dissection: a case report	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Cardiovascular Pathology	6. 最初と最後の頁 107206 ~ 107206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.carpath.2020.107206	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hirai Hideaki, Tada Yuichiro, Nakaguro Masato, Kawakita Daisuke, Sato Yukiko, Shimura Tomotaka, Tsukahara Kiyooki, Kano Satoshi, Ozawa Hiroyuki, Okami Kenji, Sato Yuichiro, Fushimi Chihiro, Shimizu Akira, Okamoto Isaku, Takase Soichiro, Okada Takuro, Sato Hiroki, Nagao Toshitaka	4. 巻 477
2. 論文標題 The clinicopathological significance of the adipophilin and fatty acid synthase expression in salivary duct carcinoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Virchows Archiv	6. 最初と最後の頁 291 ~ 299
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s00428-020-02777-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nakaguro Masato, Sato Yukiko, Tada Yuichiro, Kawakita Daisuke, Hirai Hideaki, Urano Makoto, Shimura Tomotaka, Tsukahara Kiyooki, Kano Satoshi, Ozawa Hiroyuki, Okami Kenji, Sato Yuichiro, Fushimi Chihiro, Shimizu Akira, Takase Soichiro, Okada Takuro, Sato Hiroki, Imanishi Yoriyohisa, Otsuka Kuninori, Nagao Toshitaka	4. 巻 44
2. 論文標題 Prognostic Implication of Histopathologic Indicators in Salivary Duct Carcinoma	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 American Journal of Surgical Pathology	6. 最初と最後の頁 526 ~ 535
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1097/PAS.0000000000001413	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawakami Fumi, Nagao Toshitaka, Honda Yumi, Sakata Junki, Yoshida Ryoji, Nakayama Hideki, Inoue Seijiro, Kitajima Mika, Ikeda Osamu, Nakaguro Masato, Mikami Yoshiki	4. 巻 70
2. 論文標題 Microsecretory adenocarcinoma of the hard palate: A case report of a recently described entity	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Pathology International	6. 最初と最後の頁 781 ~ 785
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/pin.12987	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakaguro Masato, Urano Makoto, Ogawa Ikuko, Hirai Hideaki, Yamamoto Yoshinari, Yamaguchi Hiroshi, Tanigawa Maki, Matsubayashi Jun, Hirano Hiroshi, Shibahara Junji, Tada Yuichiro, Tsuzuki Toyonori, Okada Yasuo, Sato Yuichiro, Ikeda Kenichiro, Sukeda Aoi, Honda Yumi, Mikami Yoshiki, Nagao Toshitaka	4. 巻 76
2. 論文標題 Histopathological evaluation of minor salivary gland papillary-cystic tumours: focus on genetic alterations in sialadenoma papilliferum and intraductal papillary mucinous neoplasm	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Histopathology	6. 最初と最後の頁 411 ~ 422
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/his.13990	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Taro, Saito Kazuhiro, Yunaiyama Daisuke, Matsubayashi Jun, Nagakawa Yuichi, Tanigawa Maki, Nagao Toshitaka	4. 巻 8
2. 論文標題 Diffusion-weighted imaging might be useful for reactive lymphoid hyperplasia diagnosis of the liver: A case report	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 World Journal of Clinical Cases	6. 最初と最後の頁 5313 ~ 5319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12998/wjcc.v8.i21.5313	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hashimoto Takeshi, Nakashima Jun, Inoue Rie, Komori Osamu, Yamaguchi Yuri, Kashima Takeshi, Satake Naoya, Nakagami Yoshihiro, Namiki Kazunori, Nagao Toshitaka, Ohno Yoshio	4. 巻 25
2. 論文標題 The significance of micro-lymphatic invasion and pathological Gleason score in prostate cancer patients with pathologically organ-confined disease and negative surgical margins after robot-assisted radical prostatectomy	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 377 ~ 383
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10147-019-01561-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kawakita Daisuke, Murase Takayuki, Ueda Kaori, Kano Satoshi, Tada Yuichiro, Tsukahara Kiyooki, Okami Kenji, Onitsuka Tetsuro, Fujimoto Yasushi, Matoba Takuma, Sakurai Kazuo, Nagao Toru, Hanai Nobuhiro, Kawata Ryo, Hato Naohito, Nibu Ken-ichi, Urano Makoto, Nagao Toshitaka	4. 巻 25
2. 論文標題 The impact of clinicopathological factors on clinical outcomes in patients with salivary gland adenoid cystic carcinoma: a multi-institutional analysis in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Clinical Oncology	6. 最初と最後の頁 1774 ~ 1785
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10147-020-01731-9	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshima Kenzo, Yoshizawa Akihiko, Takenaka Akemi, Haba Reiji, Kawahara Kunimitsu, Minami Yuko, Kakinuma Hirokuni, Shibuki Yasuo, Miyake Shinji, Kajio Kenta, Miyamoto Kana, Nagatomo Moe, Nishimura Sanako, Mano Masayuki, Matsubayashi Jun, Motoi Noriko, Nagao Toshitaka, Nakatsuka Shin-ichi	4. 巻 64
2. 論文標題 Cytology Reporting System for Lung Cancer from the Japan Lung Cancer Society and Japanese Society of Clinical Cytology: An Interobserver Reproducibility Study and Risk of Malignancy Evaluation on Cytology Specimens	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Acta Cytologica	6. 最初と最後の頁 452 ~ 462
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1159/000506431	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Murata Kazuma, Endo Kenji, Aihara Takato, Matsuoka Yuji, Nishimura Hirotsuke, Suzuki Hidekazu, Sawaji Yasunobu, Yamamoto Kengo, Fukami Shinjiro, Tanigawa Maki, Matsubayashi Jun, Nagao Toshitaka, Imai Reiko	4. 巻 28
2. 論文標題 Salvage carbon ion radiotherapy for recurrent solitary fibrous tumor: A case report and literature review	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Orthopaedic Surgery	6. 最初と最後の頁 1 ~ 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2309499019896099	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Taro, Saito Kazuhiro, Yunaiyama Daisuke, Matsubayashi Jun, Nagakawa Yuichi, Tanigawa Maki, Nagao Toshitaka	4. 巻 8
2. 論文標題 Diffusion-weighted imaging might be useful for reactive lymphoid hyperplasia diagnosis of the liver: A case report	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 World Journal of Clinical Cases	6. 最初と最後の頁 5313 ~ 5319
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12998/wjcc.v8.i21.5313	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 河合 優佑、山本 圭、堀部 俊哉、原田 容治、山口 隼、福澤 誠克、糸井 隆夫、永田 尚義、杉本 光繁、松林 純、長尾 俊孝、河合 隆	4. 巻 96
2. 論文標題 自己免疫性胃炎に合併した過形成性ポリープ様の早期胃癌の1例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Progress of Digestive Endoscopy	6. 最初と最後の頁 126 ~ 128
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地 美穂、杉本 勝俊、阿部 正和、吉益 悠、竹内 啓人、笠井 美孝、山口 浩、斎藤 和博、長尾 俊孝、土田 明彦、糸井 隆夫	4. 巻 61
2. 論文標題 針生検が診断に有用であった黄色肉芽腫性肝腫瘍の1例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 肝臓	6. 最初と最後の頁 564 ~ 571
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地 孝行、吉田 梨恵、鷺坂 誠宏、堺 洋佑、土田 奈々枝、小島 淳哉、佐々木 徹、久慈 直昭、西 洋孝、長尾 俊孝、山口 浩、平井 秀明	4. 巻 69
2. 論文標題 切迫窒息を呈した縦隔腫瘍合併妊娠の1例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 東京産科婦人科学会誌	6. 最初と最後の頁 649 ~ 653
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地 美穂、杉本 勝俊、斎藤 和博、阿部 正和、吉益 悠、笠井 美孝、竹内 啓人、山口 浩、長尾 俊孝、土田 明彦、糸井 隆夫	4. 巻 18
2. 論文標題 診断に難渋した肝腫瘍の1例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Rad Fan	6. 最初と最後の頁 62 ~ 64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計59件（うち招待講演 9件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小松紘之, 長尾俊孝, 助田葵, 山本善也, 長尾俊孝, 臼井嘉彦, 山川直之, 後藤浩
2. 発表標題 眼瞼に発生したメルケル細胞癌におけるメルケル細胞ポリオーマウイルス感染率の検討
3. 学会等名 日本核医学会学術総会(第61回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 熊木伸枝, 近藤裕介, 長尾俊孝, 中村直哉
2. 発表標題 腋窩の副乳より発生した分泌癌および浸潤性小葉癌の一例
3. 学会等名 日本病理学会総会(第110回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 絹川典子, 横田亜矢, 大庭華子, 長田宏巳, 長尾俊孝, 杉谷雅彦
2. 発表標題 気管に発生した低異型度粘表皮癌の1例
3. 学会等名 日本病理学会総会(第110回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 富田茂樹, 鳥山茜, 佐伯春美, 泉浩, 八尾隆史, 長尾俊孝
2. 発表標題 異型度の異なる類表皮癌の2例
3. 学会等名 日本病理学会総会(第110回)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 高熊将一朗, 帯包妃代, 黒子光貴, 篠上雅信, 谷野智将, 長尾俊孝, 横山宗伯
2. 発表標題 鼻腔腫瘍で診断されたHPV-related multiphenotypic sinonasal carcinoma(HMSC)の一例
3. 学会等名 日本病理学会総会(第110回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三枝奈津季, 多田雄一郎, 平井秀明, 山崎一人, 長尾俊孝
2. 発表標題 唾液腺導管癌の癌微小環境における免疫チェックポイント分子の臨床病理学的意義
3. 学会等名 日本病理学会総会(第110回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋元治朗, 中島伸幸, 河野道宏, 松林純, 長尾俊孝
2. 発表標題 前庭神経鞘腫髄液蛋白質量の多寡は、浸潤マクロファージ由来のIL-6発現亢進を示唆し、その臨床像を反映する
3. 学会等名 日本脳腫瘍病理学会(第39回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 垣花昌俊, 松林純, 前田純一, 三宅真司, 梶原直央, 筒井英光, 大平達夫, 長尾俊孝, 池田徳彦
2. 発表標題 呼吸器液状化検体細胞診の現状と更なる展望-臨床とリサーチと- 呼吸器細胞診検体の液状化处理と保存後遺伝子検索への有用性の検討
3. 学会等名 日本臨床細胞学会総会(第62回)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樋口佳代子, 浦野誠, 長尾俊孝, 山元英崇, 秋葉純, 谷川真希, 加藤拓
2. 発表標題 唾液腺細胞診ミラノシステムの有用性を検証する先駆的な多施設共同研究/2021/
3. 学会等名 日本臨床細胞学会総会(第62回) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂本佳、高橋礼典, 三宅真司, 渡部顕章, 稲垣敦史, 藤井愛子, 本多将吾, 谷川真希, 松林純, 長尾俊孝
2. 発表標題 尿細胞診にて推定診断し得た腎盂原発小細胞癌の一例
3. 学会等名 日本臨床細胞学会総会(第62回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 樋口佳代子, 浦野誠, 谷川真希, 加藤拓, 秋葉純, 山元英崇, 長尾俊孝
2. 発表標題 唾液腺細胞診ミラノシステムを用いた国内多施設共同研究の報告
3. 学会等名 日本唾液腺学会学術集会(第65回) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長尾俊孝
2. 発表標題 分子基盤に基づく病理診断(WHO分類)2 唾液腺癌の病理診断における分子検査の有用性
3. 学会等名 日本病理学会総会(第110回) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田崎晃一朗, 谷川真希, 永井毅, 福永眞治, 長尾 俊孝
2. 発表標題 子宮体部に発生した中腎様腺癌の1例
3. 学会等名 日本病理学会総会(第110回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 浜田芽衣, 山口浩, 苦瓜治彦, 中平光彦, 川崎朋範, 長尾俊孝, 山田健人, 安田政実, 佐々木惇
2. 発表標題 耳下腺多巣性結節性オンコサイト過形成の3切除例
3. 学会等名 日本病理学会総会(第110回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤岡孔輔, 鈴木邦仁, 長尾佳奈, 井上理恵, 矢野由希子, 阿部光一郎, 吉村真奈, 齋藤和博, 長尾俊孝, 筒井英光
2. 発表標題 初発時より9年経過後、99mTc-MIBIシンチグラフィにて指摘された骨転移病変にて副甲状腺癌と診断を得た一例
3. 学会等名 日本核医学会学術総会(第61回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松林純, 三宅真司, 垣花昌俊, 大平達夫, 池田徳彦, 長尾俊孝
2. 発表標題 肺腺癌を深く知る 肺腺癌の診断や治療における細胞診の役割 総論的な立場から
3. 学会等名 日本臨床細胞学会秋期大会(第60回)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三宅真司、松林純、長尾俊孝
2. 発表標題 肺癌の細胞診 腺癌と扁平上皮癌の鑑別と限界
3. 学会等名 日本臨床細胞学会秋期大会(第60回)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐藤未佳, 松林純, 三宅真司, 渡部顕章, 藤井愛子, 稲垣敦史, 秋山里佳子, 忽滑昌平, 高橋由美, 軽部晃平, 垣花昌俊, 大平達夫, 池田徳彦, 中村直哉, 長尾俊孝
2. 発表標題 縦隔・肺に腫瘤を形成したホジキンリンパ腫の細胞学的検討
3. 学会等名 日本臨床細胞学会秋期大会(第60回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田口直樹, 福森恭代, 浦雅彦, 大谷知之, 若狭朋子, 長尾俊孝
2. 発表標題 穿刺吸引細胞診より悪性を疑うも診断に苦慮した筋上皮癌の一例
3. 学会等名 日本臨床細胞学会秋期大会(第60回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 坂本真一, 安藤俊範, 宮内睦美, 藤原恵, 中黒匡人, 長尾俊孝, 小川郁子
2. 発表標題 非脂腺型リンパ腺腫様粘表皮癌の1例
3. 学会等名 日本唾液腺学会学術集会(第65回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 谷川真希、長尾俊孝
2. 発表標題 IgG4陽性形質細胞の浸潤を伴う硬化型粘表皮癌の1例
3. 学会等名 日本唾液腺学会学術集会(第65回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 平井秀明, 三枝奈津季, 浦野誠, 中黒匡人, 佐藤由紀子, 塚原清彰, 加納里志, 近藤貴仁, 大上研二, 小澤宏之, 富樫孝文, 川北大介, 多田雄一郎, 長尾俊孝, SDC多施設共同研究会
2. 発表標題 唾液腺導管癌においてEZH2高発現は複合アンドロゲン遮断療法の効果不良予測因子になりうる
3. 学会等名 日本唾液腺学会学術集会(第65回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 八木春奈、中黒匡人、浦野誠、長尾俊孝、 Faquin WC、 Sadow PM
2. 発表標題 唾液腺導管内乳頭粘液性腫瘍におけるNKX3.1免疫染色の有用性
3. 学会等名 日本唾液腺学会学術集会(第65回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 川北大介, 長尾俊孝, 加納里志, 本間義崇, 塚原清彰, 小澤宏之, 大上研二, 近藤貴仁, 富樫孝文, 高橋秀聡, 伏見千宙, 多田雄一郎
2. 発表標題 再発・転移唾液腺導管癌に対する抗HER2・抗AR療法の生存への寄与 大規模個別データを用いた後ろ向きコホート研究
3. 学会等名 日本唾液腺学会学術集会(第65回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松原脩也, 齋藤彰, 村岡龍, 徳山尚斗, 佐竹直哉, 長尾俊孝, 黒田雅彦, 大野芳正
2. 発表標題 人工知能AIを用いた腎癌の再発予測
3. 学会等名 日本泌尿器科学総会(第109回)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 菅原莉沙, 白井嘉彦, 高橋礼典, 長尾俊孝, 後藤浩
2. 発表標題 結膜腫瘤の生検を契機に診断に至ったTリンパ芽球性リンパ腫の1例
3. 学会等名 第37回日本眼腫瘍学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 南裕人, 本間俊裕, 小嶋啓之, 黒澤貴志, 永井一正, 山本健治郎, 向井俊太郎, 本定三季, 殿塚亮祐, 田中麗奈, 石井健太郎, 土屋貴愛, 祖父尼淳, 糸井隆夫, 山口浩, 長尾俊孝
2. 発表標題 術前診断に苦慮した分枝型IPMNの一例
3. 学会等名 第51回日本膵臓学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伏見千宙, 多田雄一郎, 増淵達夫, 山崎森里生, 羽生健治, 田中慈久, 櫛橋幸民, 相田真介, 佐野弘子, 樋口佳代子, 長尾俊孝, 三浦弘規
2. 発表標題 唾液腺細胞診ミラノシステムの有用性
3. 学会等名 第45回日本頭頸部癌学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松山洋, 山崎恵介, 植木雄志, 正道隆介, 高橋剛史, 堀井新, 塚原清彰, 岡本伊作, 長尾俊孝, 北原紘, 上村裕和, 吉本世一, 松本文彦, 大上研二, 酒井昭博, 高野賢一, 近藤敦, 猪原秀典, 江口博孝, 折館伸彦, 田辺輝彦, 中溝宗永, 横島一彦, 三浦弘規, 木谷洋輔
2. 発表標題 頭頸部小細胞癌の多施設調査
3. 学会等名 第45回日本頭頸部癌学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本善也, 平井秀明, 三枝奈津季, 浦野誠, 中黒匡人, 佐藤由紀子, 塚原清彰, 加納里志, 近藤貴仁, 大上研二, 小澤宏之, 富樫孝文, 川北大介, 多田雄一郎, 長尾俊孝
2. 発表標題 唾液腺導管癌におけるPTEN欠損とその臨床病理学的意義 多施設共同研究
3. 学会等名 第65回日本唾液腺学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 多田雄一郎, 長尾俊孝, 梶原真奈美, 川北大介, 高橋秀聡
2. 発表標題 唾液腺導管癌における自律神経(交感神経・副交感神経)の臨床・分子病理学的意義
3. 学会等名 第11回国際医療福祉大学学会学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山西文門, 班目明, 神田遼弥, 松本将, 篠原裕和, 根本大樹, 村松洋, 香川泰之, 内田美子, 森瀬貴之, 山口隼, 杉本暁彦, 河野真, 内藤咲貴子, 福澤誠克, 有働竜太郎, 石崎哲夫, 勝又健次, 助田葵, 長尾俊孝, 糸井隆夫
2. 発表標題 内視鏡的に整復しえた上行結腸リンパ管腫による成人腸重積症の1例
3. 学会等名 第113 回日本消化器内視鏡学会関東支部例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 貝原朱香, 林野翔, 加藤美帆, 宮岡良卓, 林映, 長尾俊孝, 菅野義彦
2. 発表標題 長期関節リウマチ罹患患者に発症した血管型腎アミロイドーシスに対し、トシリズマブが奏効した一例
3. 学会等名 第51回日本腎臓学会東部学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山田隆文, 朴辰浩, 高瀬慧, 高良祐葵, 齋藤和博, 榎野龍平, 大澤潤一郎, 池田徳彦, 松林純, 長尾俊孝, 蛸井浩行
2. 発表標題 胸腺腫術後の経過観察中にクリプトコッカス症を発症した1例
3. 学会等名 "第57回日本医学放射線学会秋季臨床大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村岡龍, 松原脩也, 徳山尚斗, 石田卓也, 橋本剛, 佐竹直哉, 並木一典, 大野芳正, 齋藤彰, 黒田雅彦, 長尾俊孝
2. 発表標題 Prediction of postoperative recurrence risk and effect of chemotherapy on postoperative recurrence in patients with upper tract urothelial carcinoma by cell nucleus morphological information analysis by artificial intelligence
3. 学会等名 第187回東京医科大学医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠原健大, 真崎純一, 榎本正統, 石崎哲央, 永川裕一, 勝又健次, 土田明彦, 齋藤彰, 黒田雅彦, 松林純, 長尾俊孝
2. 発表標題 AI 解析を用いた新たなT1b 大腸癌の治療戦略の適正化の可能性についての検討
3. 学会等名 第187回東京医科大学医学会総会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 工藤勇人, 梅津知宏, 嶋田善久, 松林純, 高梨正勝, 前原幸夫, 大野慎一郎, 萩原優, 垣花昌俊, 大平達夫, 長尾俊孝, 黒田雅彦, 池田徳彦
2. 発表標題 ゲノム解析を用いた肺癌外科治療の展望
3. 学会等名 第121回日本外科学会定期学術集会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺癌の病理診断：最近の進歩
3. 学会等名 第38回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺腫瘍における細胞像と病理診断
3. 学会等名 第59回日本臨床細胞学会秋季大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 平井 秀明、多田 雄一郎、川北 大介、中黒 匡人、三枝 奈津季、長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺導管癌におけるEZH2蛋白発現の臨床病理学的意義
3. 学会等名 第109回日本病理学会総会オンライン総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 熊木 伸枝、近藤 裕介、長尾 俊孝、中村 直哉
2. 発表標題 腋窩の異所性乳腺組織より発生した分泌癌および浸潤性小葉癌の一例
3. 学会等名 第109回日本病理学会総会オンライン総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 浦野 誠、磯村 まどか、樋口 佳代子、谷川 真希、長尾 俊孝、加藤 拓、河原 明彦、秋葉 純、野上 美和子、山元 英崇
2. 発表標題 唾液腺細胞診ミラノシステムの運用とその有用性について 本邦における多施設共同研究から
3. 学会等名 第109回日本病理学会総会オンライン総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石川 智彦、白淵 肇、小川 武則、沼野 佑樹、香取 幸夫、長尾 俊孝、古川 徹
2. 発表標題 NTRK3に2ヶ所のbreak pointを有し非典型的組織像を示した唾液腺分泌癌症例 分泌癌10例の分子病理学的検討
3. 学会等名 第109回日本病理学会総会オンライン総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋 央、宮居 弘輔、内海 由貴、河野 貴子、島崎 英幸、荒木 幸仁、長尾 俊孝、松熊 晋
2. 発表標題 特異な発症形態を呈したETV6-RET融合遺伝子を有する唾液腺分泌癌の1例
3. 学会等名 第109回日本病理学会総会オンライン総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 渡部 顕章、松林 純、山口 真由実、藤井 愛子、三宅 真司、山口 浩、垣花 昌彦、梶原 直央、池田 徳彦、長尾 俊孝
2. 発表標題 肺原発MALTリンパ腫の細胞学的検討
3. 学会等名 第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋 由美、松林 純、三宅 真司、稲垣 敦史、片桐 仁子、谷川 真希、垣花 昌俊、大平 達夫、池田 徳彦、長尾 俊孝
2. 発表標題 リンパ球性間質を伴う小結節性胸腺腫の1例
3. 学会等名 第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山口 浩、三宅 真司、松林 純、長尾 俊孝
2. 発表標題 IPMNとIPNB - 臨床病理像と細胞診 - IPMNの病理組織像
3. 学会等名 第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石澤 綾、菊地 淳、大野 優子、大澤 久美子、阿部 倫子、川野 竜太郎、今田 浩生、増田 渉、長尾 俊孝、田丸 淳一
2. 発表標題 穿刺吸引細胞診で疑われた右耳下腺上皮筋上皮癌の1例
3. 学会等名 第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 垣花 昌俊、松林 純、三宅 真司、梶原 直央、筒井 英光、大平 達夫、河手 典彦、長尾 俊孝、池田 徳彦
2. 発表標題 気管支鏡下生検時の迅速細胞診における有用性の検討
3. 学会等名 第61回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 忽滑谷 昌平、谷川 真希、三宅 真司、渡部 顕章、藤井 愛子、川野 恵美子、金子 清花、秋山 里佳子、坂本 佳、梶原 真奈美、松林 純、長尾 俊孝
2. 発表標題 唾液腺腫瘍の典型例とピットフォール 腺様嚢胞癌の細胞診断上のポイントと鑑別診断
3. 学会等名 第59回日本臨床細胞学会秋期大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 軽部 晃平、平井 秀明、三宅 真司、片桐 仁子、稲垣 敦史、山口 真由実、高橋 由美、佐藤 未佳、助田 葵、谷川 真希、松林 純、長尾 俊孝
2. 発表標題 耳下腺に発生した類上皮型神経鞘腫の1例
3. 学会等名 第59回日本臨床細胞学会秋期大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 三枝 奈津季、長尾 俊孝、多田 雄一郎
2. 発表標題 唾液腺導管癌における免疫チェックポイント阻害剤を用いた治療戦略と癌微小環境との関連性
3. 学会等名 第185回東京医科大学医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 井田 知宏、内藤 咲貴子、福澤 誠克、村松 孝洋、篠原 裕和、清宮 怜、香川 泰之、松本 泰輔、班目 明、森瀬 貴之、内田 久美子、小山 洋平、杉本 暁彦、松林 純、長尾 俊孝、糸井 隆夫
2. 発表標題 転移性大腸腫瘍を認めた悪性黒色腫の一例
3. 学会等名 日本消化器病学会関東支部第362回例会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 工藤 勇人、武内 進、前原 幸夫、嶋田 善久、牧野 洋二郎、萩原 優、垣花 昌俊、梶原 直央、大平 達夫、池田 徳彦、松林 純、長尾 俊孝
2. 発表標題 EGFR遺伝子変異陽性肺癌に対する血漿EGFR遺伝子変異検査の現状
3. 学会等名 第185回東京医科大学医学会総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 勇内山 大介、塚原 清彰、有園 英里、谷川 真希、長尾 俊孝、齋藤 和博
2. 発表標題 非HPV進行頭頸部癌患者におけるサルコペニアの新たな指標の検討
3. 学会等名 第33回頭頸部放射線研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 秋元 治朗、松島 健、一樹 倫生、河野 道宏、松林 純、長尾 俊孝
2. 発表標題 前庭神経鞘腫における髄液サイトカイン解析の病態理解への示唆
3. 学会等名 第38回日本脳腫瘍病理学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岡田 拓朗、五月女 隆、長尾 俊孝、増淵 達夫、伏見 千宙、松木 崇、高橋 秀聡、三浦 弘規、塚原 清彰、多田 雄一郎
2. 発表標題 再発転移唾液腺癌に対するカルボプラチン、ドセタキセル併用療法の有効性と安全性の検討
3. 学会等名 第44回日本頭頸部癌学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大野 真梨子、矢嶋 知佳、石割 茉由子、鳥山 和俊、菊池 亮太、蛸井 浩行、河野 雄太、富樫 佑基、辻 隆夫、松林 純、長尾 俊孝、齊木 巖、今泉 均、阿部 信二
2. 発表標題 薬剤性腸炎治療中に発症したアスペルギルス気管気管支炎
3. 学会等名 第43回日本呼吸器内視鏡学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 工藤 勇人、嶋田 善久、前原 幸夫、牧野 洋二郎、加藤 大明、北原 佳奈、武内 進、萩原 優、垣花 昌俊、松林 純、梶原 直央、大平 達夫、長尾 俊孝、池田 徳彦
2. 発表標題 非小細胞肺癌根治切除術後の再発時期・形式の検討
3. 学会等名 第61回日本肺癌学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 赤木 忠厚、松原 修、真鍋 俊明、吉野 正、小田 義直、坂元 亨宇、森井 英一、向井 清、植田 初江、上杉 憲子、大島 孝一、中村 栄男、南 優子、野口 雅之、清水 重喜、笠井 孝彦、長塚 仁、中野 敬介、長尾 俊孝、高田 隆	4. 発行年 2020年
2. 出版社 (株)医歯薬出版	5. 総ページ数 768
3. 書名 カラーアトラス 病理組織の見方と鑑別診断 第7版	

1. 著者名 Douglas R.Gnepp、Alena Skalova、Silvana Di Palma、Roderick H.W.Simpson、Nagao T、Elizabeth Ann Bilodeau	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Elsevier	5. 総ページ数 1216
3. 書名 Gnepp's Diagnostic Surgical Pathology of the Head and Neck (Third Edition)	

1. 著者名 北川 昌伸、宇於崎 宏、亀山 香織、長嶋 洋治、谷田部 恭、中黒 匡人、長尾 俊孝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 460
3. 書名 病理と臨床 臨時増刊号 免疫組織化学 実践的な診断・治療方針決定のために	

1. 著者名 北川 昌伸、宇於崎 宏、亀山 香織、長嶋 洋治、谷田部 恭、中黒 匡人、長尾 俊孝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 文光堂	5. 総ページ数 100
3. 書名 病理と臨床 希少がんの病理診断体制	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	多田 雄一郎  (Tada Yuichro)  (70292430)	国際医療福祉大学・医学部・准教授   (32206)	
研究分担者	平井 秀明  (Hirai Hideaki)  (00770744)	東京医科大学・医学部・助教   (32645)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------